

「非日常」の表現

アートin北区

芸術—それは、しばし日常を忘れ、心に潤いをもたらしてくれる「非日常」の世界

今回は、今年で8回目を迎える「北区のアーティスト展」に第1回から出品し、幅広く活動している区内在住の芸術家を訪ね、同展にかけの願いや作品を通して人々に伝えたい思いなどについて紹介します。



なかはし おさむ

中橋 修さん
(北区新琴似在住・美術作家)

第1回開催時から「北区のアーティスト展」に携わり、北区民センター水彩画サークルや文化教室の講師を務めたり、道内のギャラリーで個展を開催したりするなど、精力的な活動を展開している。作品は立体造形などが中心。



■今回開催した中橋さんの個展作品について教えてください。

作品は、素材にアクリル板を使用して、会場の空間を生かすように仕上げました。ここは太陽の光が降り注ぎます。夢や希望を想起させるようなこの光を取り入れることにこだわりました。作品はとてもシンプルなのですが、数多くの思いを閉じ込めることができます。また、今回の作品では、白と黒の組み合わせ方を意図的に不規則にしています。人は無意識のうちに安定を求め、規則的なデザインに慣れてしまいがちです。普段のパターンを崩そうとせず、無難なことを求める「日常」に対する「非日常」を表現したかったからです。

■「北区のアーティスト展」に参加したきっかけは？

主催である北区民センターからの提案を受け、参加したのが始まりです。区民の方々に、区内で活動している芸術家が大勢いることを知ってもらい、少しでも多くの作品に触れていただく機会をつくりたいという目的に賛同しました。今年で八回目を迎えますが、今から楽しみにしています。